

# 真下 紀子

発行  
真下紀子事務所  
旭川市 3条16丁目左7号  
TEL 0166-20-0808  
FAX 0166-20-1616



真下議員は、JR北海道が営業路線の約半分を単独で維持できないと、路線の多くを切り捨てる方向を示したことに、このままでは明治時代へ逆戻りする深刻な事態になると告

## JR路線存続に道の支援を

真下紀子議員は3日、定例道議会の代表質問に立ち、高橋はるみ知事の政治姿勢や、交通政策、天下り問題、原発・エネルギー政策などについてただしました

## JR路線存続に道の支援を

発しました。

衆院予算委員会で本村伸子議員がJR北海道への支援を訴えると、安倍首相は「JR北海道への支援は行っていかなければならない」と初めて明確に答弁しました。これを受け、真下議員は「抜本的な支援スキーム（枠組み）を国に示すと同時に、道としても路線存続に向けての財政支援策を具体的に示すべきだ」と求めました。  
高橋知事は「私自身が先頭に立って国に抜本的な支援を求めていくとともに、地域交通の将



山下貴文深川市長と懇談（2月27日）

来に不安を抱える道民の声を受け止め、地域の状況に応じた検討や協議が進むよう積極的に関わる」と答えました。  
真下議員は、各自治体の首長の切実な声を紹介しながら、鉄道が高齢者や障害者、高校生、妊婦にとって移動の最後の手段であり、全道的見地に立って路線存続へ立ち向かうよう重ねて求めました。

# 明るい革新道政をつくる会、道議団と懇談

## 介護の改善・鉄道の存続・最賃引き上げなど要望を受ける



真下道議団長が、定例道議会で審議される道予算の概要を紹介し、JR問題や空港民営化、教育、農林水産、中小企業支援などの論点について報告しました。

高教組、原発連、民医連、新婦連、道労連などから道政への要望などを聞き取りました。

診療報酬の改定で入院患者の入院日数が減らされ早期退院させる動きがあることなどが紹介され、「退院後の受け皿として訪問看護・介護にしわ寄せがきている。現場で対応しきれず、事業所が困難を抱えることになら」と現場の声が寄せられました。  
JR問題について「JR北海道が赤字解消のためと強気な態度にでるなか、沿線の首長や住民ががんばって声をあげている。鉄路を守る運動を支えるネットワークづくりが必要」との提案もありました。  
昨年末の労働者委員任命で、道労連から初めて委員が選任さ

明るい革新道政をつくる会（明るい会）は2月3日、2017年度道予算を審議する定例道議会（24日開会）に向け、日本共産党道議団との懇談会を開催し、意見交換しました。

## くらし支える予算に

定例道議会開会日の2月24日の朝、道議団4人そろって街頭宣伝。真下議員は、2兆7500億円の予算案が、道民の暮らしを支える予算になるよう力を尽くしますと訴えました。



れる貴重な前進ができた喜びの声とともに、「最賃引き上げと、残業を減らし雇用を増やせ」という働き方フルールの確立へ、運動と合わせ、議会での追及を求められました。



# 住民の声を聴き 現地調査

真下紀子菊地葉子宮川潤 佐野弘美の各道議は2月14日・15日道南4市町で調査を行いました。今金町では地方創生と特別支援高等学校卒業生の就職支援のとりくみについて北斗市、八雲町では新幹線による騒音、トンネル工事に伴う残土処理について現地を調査し住民から意見を聞きました。

## 障害者雇用のとりくみ

14日、今金町を訪問。町独自の障害者雇用のとりくみを学びました。今金町では、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と位置づけ、町と今金高等養護学校、地元経済界が連携して、今金町と町教委が卒業生を2年間臨時職員として雇用し、一般就労に結びつけるようとりくんでいます。



卒業後、地元の事業所や農協などに就職して、元気にがんばっている卒業生から直接お話を聞きました。「仕事は楽しいです。学校の研修とは違って仕事の重みを感じていません」と、笑顔で話す様子から、とてもやる気に満ちているのが伝わりました。

無を感じないほどになったそうです。職場の理解がすすみ、就業意欲や勤務態度のまじめさが評価され、経済界などから積極的に雇用したいと前向きな声が出てきて、好循環がもたらされているとのことでした。今金町では町の地域創生総合ビジョンに位置づけており、先進的なとりくみと言えます。

## 新幹線騒音に対策

15日、昨年3月末に開業した北海道新幹線・新函館北斗駅近くの騒音問題が発生している現場に行きました。住民の方から、線路の凍結を防ぐために設置された「空気式急速除雪装置」(エアジェット)から、大変大きな音が深夜も発せられ、健康にも影響が出るような問題となっていると聞きました。

はじめは、就業先に障がい者に対する偏見が全くなかったわけではないとのことでしたが、在学中の研修や臨時雇用の中で、払しょくされていき、障害の有



実際の音

は、蒸気の発射音と共に金属音も交じって、とても耳障りな音です。新幹線通過ごとに2回づつ、1日に100回以上音がでます。しかも確認作業などもあり、早朝や夜中時間に関係なく発せられるとのこと、改善を強く求められました。

## トンネル残土に重金属が

北海道新幹線の札幌延伸工事のうち、八雲町の立岩トンネル工事で掘削された残土に、水質基準を超える重金属の鉛が含まれていました。昨年の4定道議会できりあげた問題です。立岩トンネル建設の工事現場を調査し、環境調査や要対策土の処理について説明を受け、とられた対策を視察しました。検査結果の公開や道など自治体への連絡、今後も想定を超えた大雨に対して対策は十分かどうか意見交換しました。



また、河川などの環境汚染問題にとりくむ「流域の自然を考えるネットワーク」の皆さんからも、水質汚染やトンネル残土処理問題について意見交換しました。調査を生かして、3月の代表質問で取り上げました。

## 歩行者用信号機つきました

子育て中のお母さん達の要望が実現しました。児童の通学路にもなっている東旭川の交差点に、歩行者用信号機が片側にしかなかったため、反対側にも設置を求める要望を受け、のちや繁旭川市議とともに1000筆近い署名を添えて上川総合振興局などに、要請を行ってきました。



このほど設置が完了しました。保護者の方から、「小学1年生の子が、信号が見えて渡りやすくなったと言っています。安心して学校に送り出せます」と喜びの声が寄せられました。



## 道政・市政懇談会

2月17日、第1回定例議会に向けて、旭川市議団とともに道政・市政懇談会を開催しました。

真下議員は、就学援助の費目拡大や子育て・保育の問題、国民健康保険広域化の問題、道教委の天下り問題、建設労働者の賃金単価引き上げ、中小企業対策など、道政予算と課題について報告しました。

参加者からは国民健康保険の広域化で保険料が高くなるのではなど、様々な声が出されました。

保険料軽減のために議会でも取り上げるとともに、市民からも積極的に意見を出していかうと発言がありました。

